

# 授業の中でのディベート活動の実践

## ～論理的な構成で意見を伝える生徒の育成を目指して～

秋田県立湯沢高等学校 教諭 菅原 透

本校は令和3年度から二年間、英語授業改善事業の拠点校として、ディベートの要素を生かした授業を実践している。ゴールを「論理的な構成で意見を伝える生徒の育成」とし、特に1年生の英語コミュニケーションIにおいて、週3時間のうち1時間をALTとのTTにあて、ディベートに特化した授業を実践してきた。本稿ではどのようにディベートを授業の中で実践し、評価しているのかを紹介したい。

### 1. ディベートに特化した授業の目的と下地作り

ディベートに特化した授業の目的は、以下の2点である。1つ目は、「話すための自信を持たせること」である。そのために、ディベートが非常に有効であると考えたからである。例えば、準備にかかる負担も少なく、生徒たちに人前で表現する機会を積極的に提供し、小さな成功体験や失敗体験を積み重ねることができる。2つ目は、「学習意欲の向上」である。今日はどのようなトピックだろうかという期待感、意見を表現したいという生徒の心を開かせるものであると同時に、これまでとは異なる学習への刺激を醸成していくと考えるからである。

ディベート活動を行うに当たっては、次のような下地づくりも重要である。最初に、1年部の英語科職員でディベート指導についての共通理解をもつことが必須となる。さらにディベートによる英語の指導の目的をALTと共有すること。ALTもスピーキング活動では話すことに対する自信が必要であるという認識を強く持っていたことが分かった。その自信をつけさせるために、ディベート活動を通じて小さな成功体験を積み重ねることが有効であることも共通の認識となった。教員間の共通理解は年間を通じた指導には必要不可欠な下地である。生徒にとっては、週1時間必ずディベートがあるという意識が形成できたため、活動を行う上でのグルーピングやディベートの進め方などの教員の指示に対する理解もスムーズになり、意欲も高まった。

### 2. ディベート指導の具体的な取組

#### (1) ディベートのトピック（論題）

当初は教科書本文に関連したものを提示していたが、より多くの身近なトピックに触れさせたいと考え、ALTとトピックを選定した。

#### (2) ディベート活動の流れ

- ① 4人グループを作り、賛成・反対側のペアに分ける。
- ② ペア内で賛成または反対の理由を考えさせて、互いの主張と理由を共有させる。
- ③ 相手の主張・理由に対する反駁をペア内で考えさせて、互いの反駁を共有させる。ディベートではジャッジが必要だが、あえて勝敗をつける形にせず、英語を使い自由に意見を共有することを心がけた。

#### (3) ブレインストーミング

ブレインストーミングの時間を10分間設定し、キーワードやフレーズを用いて、できる限り多くのアイデアや例をワークシートに書くよう繰り返し指導した。この活動を行うことで、これまで英語で発言することに慣れていなかった生徒も、次第に自分の考えを互いに伝え合うことができるようになった。さらには、意見を交換し指摘し合うことによって、主張・理由がより深化するということが生徒自身が気付いていった。

#### (4) AREA (Assertion, Reason, Example, Assertion) 「型」の提示

自分たちで作った主張・理由を相手に正確に分かりやすく伝えるためには、論理的に説明することが必要であるとの気づきを生徒自身が得たため、自分の意見を述べるために必要な「型」であるAREAを提示した。ALTに論理的に意見を述べる型のサンプルをいくつか提示してもらい、それらを何度も口頭で練習する機会を設けた。この取組によって、多くの生徒が自分の意見を、最初は「型」にはめて述べる習慣を形成することができたと感じている。

#### (5) 反駁につなげる指導

自分たちの主張・理由を論理的に伝えるという点では早い段階で多くの生徒に成長が見られた。しかし、生徒が最も苦手とした点は反駁である。噛み合わない反駁の要因として、①「相手の主張・理由を十分に理解していない」とことと、②「直接的な反駁となっていない」ことが挙げられる。

①については、聞き取れない場合は“Could you say that again?”などのフレーズを用いて、互いにやり取りを通じて主張・理由を理解するよう指導しているが、聞いた内容を整理できないという課題がある。この課題を改善するためには、聞きながらメモを取る習慣を生徒が身に付ける必要がある。しかし、メモを取るようと伝えるだけでは、多くの生徒が文でメモを取ろうとする傾向が見られ、どうしても間に合わずに中途半端なメモとなり、相手の主張を崩すための反駁につながらなかった。

そこで、重要だと感じた英単語や語句のみメモすることや日本語を使ってもよいことにした。また、聞き取った表現を使ってリテリングする活動を適宜取り入れた。メモを取る力とそのメモを基に相手の主張・理由を理解する力の向上については、現在も指導を継続し努力しているところである。

②については、論理的思考力が大いに関係する課題である。以下のような反駁が実際に多く見られた。トピックは Instore shopping is better than online shopping.である。

You said instore shopping is better than online shopping because you can touch the items and choose the best one. However, we disagree. In online shpping, you can buy what you want anytime anywhere.

この例では「店内でのショッピングでは実際に商品を触って最も適したものを選ぶことができる」という相手の主張・理由に対して、「オンラインショッピングではいつでもどこでも欲しいものを買うことができる」という反駁となっており、主張・理由に対する直接的な反駁となっていない。ただ単に、自分たちの主張・理由を繰り返すのみで終わってしまったグループが多かった。

この点を改善する方法として、英語という教科を越えて他教科とも連携し、論理的思考力を高めていく必要がある。次年度は国語科と連携し、年間を通じて論理性を高める授業を共同で実施する予定である。

### 3. ディベート活動の評価について

#### (1) 時期と方法

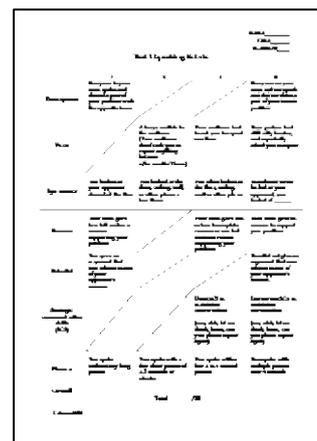
今年度はパフォーマンステストの一環としてスピーキングテストにディベートを取り入れることとし、1・2学期末にそれぞれ1回ずつディベート活動の評価を実施した。1クラス6グループ(4人1グループ)をALTとJTE2名の計3名で分担して評価した。JTEはChromebookを使って録画することにより、より正確な評価となるよう心がけた。

## (2) ルーブリックの活用

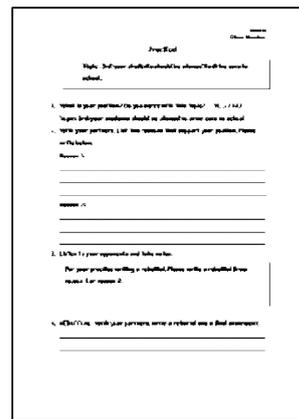
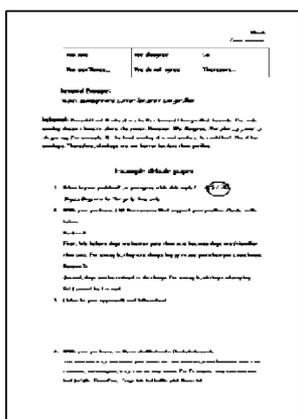
評価は、前任のALTが中心となって作成したルーブリックを用いた。

ルーブリックの裏面に日本語に翻訳したものを載せたため、生徒にとって評価内容が明らかとなり、自己調整を図る機会を与えるものになった。

評価項目の改善点として、反駁をより適切に評価するため、2つある主張・理由の両方に反駁できたかどうかを加えたいと考えている。また、Strategic Communication Skills (SCS) はディベートにおいてはあまり必要がないと思われるため、通常のスピーキングテストと差別化を図ったルーブリックへと改善していきたいと考えている。



現実の問題として毎授業時に個々のグループのディベート活動を教員が評価することはかなり難しい。そこで、授業のまとめの時間に、多くのグループに共通した問題点や課題を全体で共有し、次のディベート活動に生かすフィードバックを与えることを続けている。生徒自身による気付きやより深い振り返りのために、今後は生徒による自己評価や生徒同士の相互評価も取り入れていきたい。



スピーキングテスト用のディベートのための練習として生徒に配付したワークシート例

## 4. 成果と課題

本稿で紹介したディベート活動は一般にはマイクロディベートと呼ばれるもので、身近なテーマに基づいて賛成・反対を明確に主張し、論理的思考力を生かして反駁するトレーニングである。

この2年間、拠点校としてディベートの授業における活用法を研究したことによって、ディベート活動は英語の4技能を高める有効な活動であると実感している。理由は、スピーキング力やリスニング力の向上はもちろんのこと、伝えるための型(AREA)を習得したことにより、特にライティングにおいて意見を論理的な構成で書くことができる生徒が増えたことが挙げられる。英語で意見を書く問題においても、1学期と2学期の生徒の解答を比較すると、明らかにAREAが意識された解答が増え、記述量も増加した。

今後の課題は、「いかに即興性を高めていくか」「データなどの論拠をどのように主張や反駁に取り入れていくか」である。課題克服に向けて、「準備時間を短縮する」「原稿を見ずに話す指導を継続する」ことを実践したい。さらに、日頃から科学技術や環境問題、社会問題など幅広いテーマについて自分の意見を論理的に書く活動を授業に多く取り入れたい。伝えるための「型」を用いてアウトプットする活動を継続し、論理的な構成で意見を伝える生徒を育成していきたい。